

総務文教委員会記録

令和6年5月15日（水）
10時03分～12時21分
全員協議会室

【委員】 芦谷委員長、沖田副委員長、村武委員、岡本委員、永見委員、西田委員

【議長・委員外議員】 笹田議長

【執行部】

（総務部） 山根総務部長、末岡総務課長、森脇防災安全課長、
琴野防災安全課危機管理監

（地域政策部） 田中地域政策部長、岸本政策企画課長、官澤定住関係人口推進課長、
永田まちづくり社会教育課長、河上まちづくり社会教育課副参事

（教育委員会） 岡田教育長、草刈教育部長、久保教育部幼児教育担当部長、
龍河教育総務課幼児教育担当課長、山口学校教育課長、
鳥居学校教育課学力向上推進室長、山本文化振興課神楽文化伝承室長

【事務局】 松井書記

【議題】

1 執行部報告事項

- (1) 令和7年度国県重点要望事項について 【該当課】
- (2) 周布川西防災センターの建設について 【防災安全課】
- (3) 令和5年度米軍機騒音等対策協議会総会の開催について 【防災安全課】
- (4) 令和6年度浜田市総合防災訓練について 【防災安全課】
- (5) 島根県立大学（浜田キャンパス）・リハビリテーションカレッジ島根・
浜田ビューティーカレッジの入学者の状況について 【政策企画課】
- (6) 令和5年度空き家バンク制度利用状況について 【定住関係人口推進課】
- (7) 音楽を核とした定住促進事業の状況について 【定住関係人口推進課】
- (8) 浜田市地域協議会委員の選任について 【まちづくり社会教育課】
- (9) 令和6年度まちづくりコーディネーター名簿について 【まちづくり社会教育課】
- (10) 令和6年度地区サポーター名簿について 【まちづくり社会教育課】
- (11) 令和5年度敬老福祉乗車券交付事業及び運転免許証自主返納等支援事業の
申請実績等について 【まちづくり社会教育課】
- (12) 令和5年度浜田市生活路線バス等の利用実績について 【まちづくり社会教育課】
- (13) 浜田市生活路線バス「有福線」の運行について 【まちづくり社会教育課】
- (14) 令和6年度幼児教育・保育施設の変更点と未就学児童の状況について
【教育総務課】

- (15) 令和5年度 市内中学校卒業生（令和6年3月卒業）の進学状況について 【学校教育課】
- (16) 浜田市内県立高校3校共同寄宿舍（男子）の運営状況について 【学校教育課】
- (17) 令和5年度学力育成総合対策事業実績報告書 【学校教育課】
- (18) 石見神楽の保存・伝承に向けた検討について 【文化振興課】
- (19) その他
(配布物)
- ・ 令和6年度運動会及び学習発表会等日程 【教育総務課・学校教育課】
 - ・ 令和6年度学校別児童生徒数一覧表 【学校教育課】

2 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 03 分 開議]

○芦谷委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は6名で定足数に達している。それではレジュメに沿って進める。

1 執行部報告事項

(1) 令和7年度国県重点要望事項について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○総務部長

(以下、資料を基に説明)

○教育部長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

○岡本委員

島根県立高校の寄宿舎整備は、建替えという位置付けの説明だったと思うが、先般浜田市が応急的に対応した寄宿舎の入居の問題があった。それについては議会で認めた以上どうなのかと、私はその経緯について不満を持っている。

それはそれとして、もともと県が準備しなければならない施設に対して私は異を唱えてきたが、県はその後、浜田市が準備した寄宿舎について、何らかの資金的な対応だったり、県とのつながりは現時点でどのように話が進んでいるか。

○教育部長

予算で県の補助金400万円を計上しているが、それは今の試算では677万円が想定されるということで県に協力いただいている。また、今回浜田市が緊急避難的ではあるが民間の施設を借り上げる形で寮を用意したことに対して、浜田高校の校長からも、市が用意しなければ県外枠を1桁で募集しないといけない状況だったのが、2桁の16名で募集をかけられて、県外からの入学は14名だったと思うが、普通科と理数科を合わせて定員200名のところ、それを含めて152名、定員の76%を確保できたことで大変感謝されている。

昨日の知事要望でも、その点については、丸山知事からも市長に対して感謝するというような言及もあったので、意義については県にも十分理解してもらっている。今後についてはこれから協議することになると思うが、現時点ではそういう形で、浜田高校については寮生の配分などは連携を密にしながら協力して運営していくことを考えている。

○岡本委員

先ほど400万円が677万円と金額のことを言われたが、今後県は予算面で補正を組んでも市に対する金銭的な補助は考えているのか。見解があるなら示してもらいたい。

○教育長

もともと県の400万円の助成は、他の事例で大体10人程度の寮生の確保に対する金額である。今回浜田市が初年度で22人、これがフルに埋まれば32人ということで人数が増えていく。それに応じて県でも検討すると言ってもらっており、当面22人を入れる初年度については677万円に増額していただいた。

○芦谷委員長

ほかに質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(2) 周布川西防災センターの建設について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○防災安全課長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

○岡本委員

昨日の夜、防災センターの前を通ったら暗かった。夜間に避難する場合に備え、照明や看板で表示することについて見解を聞かせてほしい。

○防災安全課長

夜に避難するときには灯りがなくて暗いのではないかという指摘だが、私どももその辺は少し心配しているが、常時照明をつけておくのはもったいないということで、防災倉庫についてはソーラー発電による人感センサーの照明で明るくなるようにしている。入口は歩道の縁石が見えにくく危ないだろうということで、ポストコーンを設置してぶつからないように準備しようと検討を進めている。

○岡本委員

施設の予算からなかなかその設備は難しいという意味合いだと思うが、地域の防犯灯という意識があっても良いと思う。防災ではなく明るくしようという観点であれば、防犯灯として担当課で考えたらどうか。提案ということで話をしておく。

○芦谷委員長

ほかに質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(3) 令和5年度米軍機騒音等対策協議会総会の開催について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○防災安全課長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(4) 令和6年度浜田市総合防災訓練について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○防災安全課危機管理監

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

○沖田副委員長

大雨等の実災害がある場合は中止するとのことだが、雨天の場合はどうするのか。

○危防災安全課機管理監

どこからという線引きは難しいが、通常の雨であれば実施しようと考えている。

○沖田副委員長

仮にとてつもない豪雨により中止する場合、そのお知らせ方法はどうするのか。

○防災安全課危機管理監

訓練の発令と同じように防災行政無線と防災防犯メール、また、参加通知をいただいているので、屋外に避難することを選択された組織には電話連絡も必要だと考えている。

○村武委員

浜田地域には自主防災組織が設立されていないところがたくさんあると思うが、訓練の後に、そういったところにどのような動きをするのか。自主防災組織の設立に向けての啓発も必要だと思うが、どのように考えているか。

○防災安全課危機管理監

自主防災組織の設立については、日頃から防災出前講座に呼ばれたときなどに広めるようにしている。避難訓練の後に防災出前講座を開催すると言ったが、現在防災組織が未結成のところ、あるいは今からやろうと言っているところに出てもらって、機運をさらに高めて自主防災組織の結成につなげていきたい。いずれにしても、浜田地域にはまだ設置されていないところもあるので、今回だけでなく1年を通じて案内をしていきたい。

○村武委員

私の町内も出前講座について話をしたが、当日、避難訓練が終わった後に出前講座というのは難しいという話になった。そういうところも多いと思う。出前講座に呼

ばれたら行くというスタンスだと思うが、呼ばれないところは意識が低いのだと思うので、そこの意識をどのように高めていくかを考えて、出前講座などをまずは積極的に受けてもらうことを進めてもらいたいと思うがどうか。

○防災安全課危機管理監

おっしゃるとおりである。これからも宣伝を積極的にやっていきたい。

○永見委員

この防災訓練について、各町内会等への周知はどのようにしているか。

○防災安全課危機管理監

浜田地域では案内を出した全ての町内に改めて電話して参加の案内をしている。金城や旭地域などは自主防災組織ができてしっかりしているので、そこを通じて、再度電話しているかどうかは把握していないが、おおむね行き渡っていると思う。浜田地域では参加するという通知をくれたところはもちろん、連絡がなかったところにも再度電話連絡して案内するようにしている。また、行政連絡員会議でも浜田地域に行って案内するようにしている。

○永見委員

周知の状況は確認できたが、去年は防災訓練があるのを知らなかった人もおられたので、周知はしっかりとお願いしたい。

もう1点だが、本庁と支所における災害対策本部の運営訓練の説明もあったが、各支所における災害対策本部の運営訓練の内容を教えてほしい。

○防災安全課危機管理監

私は支所の災害対策本部訓練に出たことがないが、やることは情報の収集、対応の指示、本部との連携で、本庁の本部の縮小版というようなことになると思う。

○永見委員

自主防災組織との連携はどのようにするのか聞かせてほしい。

○防災安全課危機管理監

私は全て把握してはいるわけではないが、特に三隅や金城などの自主防災組織の活動が盛んなところは、訓練の後に、せっかく集まるのだからと自主防災組織の訓練を併せて実施するところがあると聞いている。

○永見委員

自主防災組織との連携はしっかりしてもらわないと、去年も自主防災組織と各支所の対策本部の連携がうまくいかなかったような話も聞いているので、十分に連携して対応してもらいたい。

○防災安全課危機管理監

おっしゃるとおりだと思う。避難された後に人数を確認してもらい、何人避難して皆無事だという連絡をもらうようにしている。

それと、先ほど質問のあった市民への周知だが、これまで訓練説明会の案内を出したり、防災出前講座でお願いしたりいろいろしてきたが、次の市報に併せて、非常持ち出し品に特化したチラシを作成したので、これを全戸配付して最後にもう一度周

知したい。

○岡本委員

昨日の地域井戸端会の会場で、このたびの防災訓練について計画が遅いという苦情を受けた。今の話では、参加者の人数を把握して防災訓練を開始し、その報告をして終わるといって昨年と同じ流れだろうと思っているが、地区によっては総会が終わっていて、またこのことについて皆に集まってもらって話をしなければならないということで、当日の流れを早目に知らせてほしいという内容だった。

このたびの訓練は全市的にやるということは理解しているが、参加するところについてはどういう避難をしたか、例えば避難所に行かなければいけないところもあるだろうし、自宅の1階から2階に避難して安全を確保したと報告して終わるところもあると思うが、このたびは避難所を開設し、開設した避難所でどういう対応をしていくのかということをご指導するという認識で良いのか。

○防災安全課危機管理監

おっしゃるとおり、金城や三隅などでは、これまでもまちづくりセンターを開場していたが、浜田ではしていなかったもので、今回は浜田でまちづくりセンター15か所と周布川西防災センターに職員を配置して、お越しになる方がいれば職員も受付や本部とのやり取りの練習にもなると考えている。中にはその後、せっかく集まったのだからと市民が何かするところもあるかもしれないが、市民にはそこに集まってもらい、皆の無事を確認して、人数を確認したら市としての訓練はそこで終わりとなる。

○岡本委員

避難所に行って確認して終わりという説明だが、自主防災組織ができているところはそれより一歩も二歩も進んでいるのだろうと思う。3日間は行政からの応援は来ないと再三再四説明を受けている。そうすると、3日間の自主運営についてどうしてほしい、どういう形になるのかを避難する人や運営する人に必ず伝えておかないといけない。避難者が来たときにそれをどう確認するのかは一つの経験になるが、では次にこの3日間をどうするか。トイレの問題もあるだろうし、そういうところまでやる必要があるのではないか。このことについて見解を聞きたい。

○防災安全課危機管理監

避難所の運営については、委員が言われたことを大きな目標にして我々も動いているが、来た人にいきなりというのも難しいところがあり、今はまず避難してもらうことに軸足を置いている。もちろん今後は委員が言われた方向に持っていくべきだと課内でも考えている。

○芦谷委員長

ほかに質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

- (5) 島根県立大学（浜田キャンパス）・リハビリテーションカレッジ島根・浜田ビューティーカレッジの入学者の状況について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○政策企画課長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(6) 令和5年度空き家バンク制度利用状況について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○定住関係人口推進課長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

○岡本委員

私はU I ターンの活動を高く評価しているが、特にI ターン者について地域とのコミュニティがうまくいっていない。町内会に入らない、活動に参加しないという声が、地域井戸端会で昨年も今年もあった。U I ターンする人に対して、担当課が言うべきか分からないが、何らかの形で地域や町内会への参加をガイドしていかないと、地域が言っても、聞いていなかったという話になるので、そのことについて工夫してほしい。

○定住関係人口推進課長

実際に私も経験したが、U I ターン者が空き家バンクを利用する際に、自治会や町内会の主な方との顔合わせを希望するかを尋ね、挨拶したいという意向があれば一緒に回ったこともある。そういった声かけをするようにしているが、希望しない人もいるので、その辺の工夫は考えていきたい。

○永見委員

市内の転居数が42件で一番多いが、市内の転居とはどのような状況なのか教えてほしい。ただ地域内での移動なのか、それとも周辺の中山間地域から市街地への移動なのか。

○定住関係人口推進課長

主に同じ地域間での転居が割合としては多い。浜田地域から浜田地域への転居が多い。

○永見委員

周辺部から市街地への転居数はさほど多くないということか。

○定住関係人口推進課長

割合で言うとそこまで多くはないが、ないわけではない。

○芦谷委員長

ほかに質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(7) 音楽を核とした定住促進事業の状況について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○定住関係人口推進課長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

○岡本委員

雇用状況の表を見ると退職の数が多いが、これをどのように評価するのか。働くのが難しい、音楽活動ができないなど、マイナスの要因があって辞めるのか、その辺の状況をどのように把握しているか。

○定住関係人口推進課長

Biz. Coop. はまだの勤務内容は、1日8時間のうち6時間をBiz. Coop. はまだで働き、残り2時間は音楽活動ができるという、地域ならではの魅力としてこういった仕組みを作っているの、そういった取組に賛同した人が本市に移住して生活するが、実際に生活する中で、例えば6時間でなくても8時間就労しても音楽活動が続けられる見込みが立った人や、派遣先の事業所が正規で迎え入れてしっかり人材育成したいといった互いのニーズがマッチして、1年程度で退職した人が多いと考えている。

○岡本委員

よく分からない。その人たちは音楽活動が2時間できるということで来られているのだから、続けてもらってこの地域の音楽環境がグレードアップするのだろうと思っている。採用した20名のうち5名残っているが、15名が退職したというのはどうなのかと思う。

私は、浜田市は音楽活動をする人の練習会場や、講師をして生徒を集めるという環境に恵まれていない、整備されていないと思っている。そういうところも問題なのではないか。

○定住関係人口推進課長

Biz. Coop. はまだというよりは、音楽家の活躍の場や練習の場のことだと思う。こちらについては下府町にある防災倉庫を借りて練習させてもらったり、夢の音村を貸してもらった経緯もある。石央文化ホールの貸館以外の部分を空いているときに限って使わせてもらうなど、こちらもいろいろな練習場所を探している。音楽家たちからも、そこまで練習場所に困ったという話はあまり聞いていない。もしそういった意見があったということなら私が承知していなかったということなので、今後

ヒアリングして検討したい。

○地域政策部長

この表の退職15名というのを心配されているようだが、実際に我々が憂うべき数字は転出4名であり、浜田市12名、江津市4名という数は、逆に、Biz. Coop. はまだからの派遣社員という立場から、派遣先の事業所などに正規職員として完全に定着したということなので、決して悪い流れではないと思う。

派遣だと期間も限られているので、ある程度ノウハウができ上がったタイミングでまた変わったりすることがある。逆に事業所のほうも、せっかく育ててきた人材なので完全に定着してほしいというニーズがある。それがマッチした結果であり、必ずしも悪いことではないと思っている。

○岡本委員

今の説明を聞いて安心した。そうであるならば、これは書類として皆の目にとどまるので、状況が良いということアピールしないと、私は単純に15名もいなくなってしまったと思ってしまった。その辺は工夫してほしい。

私は練習会場に苦慮されていると思っている。まちづくりセンターも浜田地域ではできないというのは事実あるわけだし、それを対応してあげないと、せっかく定住につながるものなのに、このたび浜田一中はブラスバンド部員が増えたとか、音楽関係が注目されていると思う中で、練習会場は担保しなければいけない。そういう意識は持つべきだと思うがどうだろうか。

○定住関係人口推進課長

彼らの声に耳を傾けて、練習会場をもっと確保できるように検討していく。

○村武委員

この事業が始まって、浜田で音楽が盛んになったと感じている。居住地を見ると、ほとんどの人が浜田市に住んでいるが、江津市に居住している4名も浜田市内の派遣先事業所に就職しているということで、浜田市内で仕事をしているのに、なぜ江津市に住んでいるのか。

○定住関係人口推進課長

この4名はシェアハウスを希望されており、浜田市も検討したが、江津市の物件を見つけられた。

○沖田副委員長

特定地域づくり事業を活用しているということで、これは浜田市独自ではなく国の制度だと思うが、せっかく成果が出ても浜田市独自でないものでいつか終わりがあるかもしれない。せっかく今ある程度成果が出始めたときに、市にとってはこの事業をずっと続けていけるのかどうかということがある。そういった意味で、この事業の今後の見通しをどう考えているか。

○定住関係人口推進課長

退職して就職する人がいれば、それによって新たにBiz. Coop. はまだに受け入れることができる。この取組を通じて放課後児童クラブなどの新たな受入先が

広がっており、今後もニーズがあるので、引き続き取組を続けていきたい。

○沖田副委員長

国がこの制度をやめても市で続けるのか。

○定住関係人口推進課長

国は特に期限を切らずに半永久的に続けていきたいということで制度化したという説明を聞いているので、国の制度に従って続けていきたい。

○西田委員

この事業は地域おこし協力隊の違う形の国の事業だと認識している。今回はたまたま音楽を核として浜田市でこういう事業をしているが、浜田市内のいろいろな企業や団体の中で、特定地域づくり事業を活用して人材を浜田に呼び込もうという動きはほかにはないのか。

○定住関係人口推進課長

弥栄地域で特定地域づくり事業を検討されているので、私どもも関わって一緒に推進していきたい。

○芦谷委員長

ほかに質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

ここで暫時休憩する。

[11 時 00 分 休憩]

[11 時 09 分 再開]

○芦谷委員長

委員会を再開する。

(8) 浜田市地域協議会委員の選任について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○まちづくり社会教育課長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

○村武委員

浜田地域以外のところは恐らく地区まちづくり推進委員会からの推薦で入っておられると思うが、浜田地域はまちづくり推進委員会ができていないところもあるが、このメンバーはどのように決めたのか。

○まちづくり社会教育課長

浜田地域以外はまちづくり推進委員会からの推薦で、浜田地域は連合自治協議会

に照会して、浜田、石見、周布、長浜のそれぞれの地域から何名ずつという形で推選してもらった。

○芦谷委員長

ほか質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(9) 令和6年度まちづくりコーディネーター名簿について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○まちづくり社会教育課長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

○村武委員

担当地域について、浜田地域は広いし、まちづくり推進委員会が組織されていないところもたくさんあるが、そこはどのように対応するのか。

○まちづくり社会教育課長

まちづくり推進委員会ができていないところに対してのアプローチは一人では難しいので、5人で地域を分けて担当を持ちながら関わっている。

○村武委員

皆でフォローするということだと理解した。まちづくりコーディネーターに今年度重点的に進めてもらいたいことなどがあれば聞かせてほしい。

○まちづくり社会教育課長

やはり浜田地域のまちづくり推進委員会の設立ができていないところをメインに考えている。まちづくりコーディネーターは4年目になり、地域内のまちづくり推進委員会同士の連携はある程度できていると思うので、今度は地域を越えた連携ができないかを今年度の目標として取り組んでもらうよう先般話をしたところである。

○村武委員

まちづくりコーディネーターとまちづくりセンターの連携がまだ希薄なところもあると認識している。そういったところもしっかり連携して、地域のまちづくり推進委員会にアドバイスをするなど、役に立ってもらいたい。

新設のまちづくり推進委員会だけではなく、既存のまちづくり推進委員会でも「うまくやっていけない」という話をよく聞くので、そこへの関わりもぜひお願いしたい。

○まちづくり社会教育課長

確かに、既存のまちづくり推進委員会へのアプローチがなかなか難しい。以前ヒアリングをする中で、まちづくり推進委員会に限らず、まちづくりセンターからも、こういうアドバイスや話をしてほしいという声をもらう仕組みを作っているの、今

年度はまだできていないが、そういったものを各まちづくり推進委員会に送って、何かあれば訪問していきたい。

○芦谷委員長

ほかに質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(10) 令和6年度地区サポーター名簿について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○まちづくり社会教育課長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

○岡本委員

私はこの地区サポーターのことがよく理解できない。まちづくりコーディネーターやまちづくりセンターとの位置付けがよく見えないのだが、まず選出の方法について伺う。

○まちづくり社会教育課長

地区まちづくり推進委員会の事務のサポートもあるので、地域に精通している方が大前提で、まちづくり推進委員会から推薦いただいた方を市で面接して任用する形をとっている。

○岡本委員

地区サポーターについての私の認識は、市長が地域でいろいろな話を聞いた際に、何か不便はないかと聞くと、事務方が要るという声があちこちから出たため、地区サポーターを設置しなければならないという話を聞いていた。実質、金城では雲城、旭では今市とある程度限定的である。私は、雲城に所属していてもほかの地区の事務方もサポートするのだと思っていたが、聞けばこれは手挙げ方式で、欲しい地区に決まったと聞いている。このことについてはどうか。

○まちづくり社会教育課長

今回の地区サポーターの決定については、委員が言われたように、まちづくり推進委員会に「来年度こういう制度を設けるがどうだろうか」という案内をして、手が挙げたところに配置している。今年度は試行ということで始めているので、委員が言われたように、一つのまちづくり推進委員会だけでは事務量が少ないが、隣の地区と一緒にやったり、地域全体で一人や二人という形ができるかどうかは、今年度様子を見ながら検証して、来年度以降の任用を考えていきたい。

○岡本委員

試行的な話は分かった。浜田地域ではまちづくり推進委員会ができているところもあればこれから立ち上げるところもある。一番問題なのは、単独の自治会や町内会

に事務方がいるが、全体になったときに誰がやるかが非常にネックになってくる。浜田地域は唐鐘に決まったとなると、今年すでに2、3団体のまちづくり推進委員会ができているときに、そこをサポートしないと事務方が育たない。それをまちづくりセンターにさせるのかということがある中で、今は浜田のまちづくりコーディネーターが事務方をしてくれているが、そこと連携して事務方のサポートになるように、それと、まちづくりセンターもいろいろな教育関係の計画を出したものに従って地域に発信しているが、そことの位置付けもきちんと整理してあげないといけないと私は思っている。今後の課題と考えを伺いたい。

○まちづくり社会教育課長

浜田地区では瀬戸ヶ島のまちづくり推進委員会ができ、今後も何団体か予定している。おっしゃるように広く大きくなったので誰がどう事務をするのかだが、地区サポーターを入れて支援するところもあるし、公民館からまちづくりセンターに変わった際にまちづくりを支援する機能も担っているのだから、まちづくりセンターや地域にどういった支援が望ましいか、できたから関わらないのではなく、まちづくりコーディネーターが関わったり、市職員もコーディネーターと共に行っているのだから、話をしながらどの形が良いか今後検討していきたい。

○岡本委員

市はあいのりタクシー制度を進めている。地域で説明すると皆関心はあるようだが、受ける側の事務方が大変だと聞いている。その部分が地区サポーターの業務内容なのかと思っていたが、状況が違う形で展開してきた。こういうことが今後注目されるので、まだ試行とのことなので、今後検討してほしい。

○まちづくり社会教育課長

私も先日、岡見まちづくりセンターのセンター長と話をすることで、今岡見には入っていないが、あいのりタクシーなどほかのいろいろな事業が今後入ってくるとなると、今のまちづくりセンターの職員だけでまちづくり推進委員会の事務をするのは難しいので、地区サポーター制度を来年度以降考えてみたいという話を聞いた。試行ではあるが、来年度以降どういった形ができるか検討していきたい。

○村武委員

現在5名決まっていて、あともう1名浜田地域で決まると聞いた。今決まっている5名は浜田地域以外で、恐らくまちづくりセンターが事務局を担っていたところではないかと思う。まちづくりセンターになった際に職員が1名増になっているが、まちづくり推進委員会の事務局を担うので増になったという理由もあったのではないかと思っている。しかしまたこうして地区サポーターを配置するということは、まちづくりセンターの職員だけではやっていけなくなったということか。

○まちづくり社会教育課長

今回手を挙げたところはまちづくり推進委員会の事業も多く、敬老福祉乗車券の業務が下りてきたり、今後はコミュニティスクールの学校運営協議会が設置されるとそこにも事務が必要になってきたりするため、今回地区サポーターは地域からの要望

もあり、試行的ではあるが制度化した。

○村武委員

業務が多忙化しているため地区サポーターに入ってほしいのだと思う。浜田地域は一つのまちづくりセンターがたくさんのもちづくり推進委員会を抱えている現状がある。まちづくりセンターの職員に事務局を担ってもらうことはほぼ不可能だと私は思っている。それを考えると、浜田地域は重点的に地区サポーターの配置を考えなくてはならないと思うが、そのあたりはどうか。

○まちづくり社会教育課長

私も、浜田地域のまちづくりセンターの職員にまちづくり推進委員会の事務局を担ってほしいとは思っていない。浜田地域は人口が多いので、地域でできることは地域にしっかり活躍してもらい、例えば会計処理で銀行に行ってお金を下ろしたりといった仕事は日中しかできないので、そういった事務支援はまちづくりセンターで手伝ったり、事務的なところを少し手伝うのがセンターの職員の仕事だと考えている。センターの職員も2、3人でセンターの業務やまちづくり推進委員会の業務をしなければいけないのは大変なので、できるだけ浜田地域のまちづくり推進委員会に対して地区サポーターの設置を促すようなアプローチも今後必要になってくると思う。

○西田委員

市として地区サポーター5名にどのような指導や指示をしたのか。

○まちづくり社会教育課長

地区サポーターはあくまでもまちづくり推進委員会の事務や事業のサポートを担当するので、センターの職員が1名増えたのではなく、違う組織の人が一緒にいるということで、その辺の線引きは地区サポーターとセンター職員の両方に話をした。

○芦谷委員長

ほかに質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(11) 令和5年度敬老福祉乗車券交付事業及び運転免許証自主返納等支援事業の申請実績等について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○まちづくり社会教育課副参事

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

○西田委員

昨日、旭の木田まちづくりセンターで聞いた話だが、免許証の自主返納をするには運転免許センターに行かないといけないのか。

○まちづくり社会教育課副参事

運転免許センターに行くのが一番良いと思う。郵送や代理の人でも必要なものがそろっていれば可能とは聞いているが、はっきりとは答えられない。

○西田委員

基本的に運転免許センターに免許証を返さないといけない。例えば旭や三隅など遠方の方は、免許証を返納するとそこからの移動ができない。敬老福祉乗車券がその時点であればそれを利用できるが、それが利用できない。例えば市役所や支所で免許返納を受け付けてもらえれば、その場で敬老福祉乗車券をもらって活用できる。細かいことかもしれないが、自主返納した人に対するその時点での移動手段を市役所に考えてほしいと言われたので、担当課の所見を伺う。

○まちづくり社会教育課副参事

警察署の管轄になり、免許返納は大変重要なものなので、その手続を市が担うのは難しいのではないかとと思うが、一応そういう市民の声があったということで承り、警察等に話はしてみようと思う。

○地域政策部長

敬老福祉乗車券は70歳以上の人を対象としている。免許を返納する時点で70歳を超えていれば事前に購入しておくこともできるので、必ずしも免許を返納した時点で何もないという状況の人ばかりではないと思う。

70歳前に返納するのは何らかの事情がない限りそれほど多くないと思う。少ないケースだと思うが、何らかの対応ができないかはまた考えていきたい。

○芦谷委員長

ほかに質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(12) 令和5年度浜田市生活路線バス等の利用実績について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○まちづくり社会教育課副参事

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

○岡本委員

交通については、前回の総務文教委員会委員会で状況を聞かせてもらった。JRや石見交通の運転手が高齢化で不足している中で、市も地域路線を民間事業者に委託しているが、運転手は年齢的なものも含めてどうなっているか。担当課が把握しているなら状況を説明してほしい。

○まちづくり社会教育課副参事

まだそこまで細かいところは把握していないが、それぞれの業者においては内容を確認した上で市の入札に参加しているので、与えられた業務ができるという判断の

もとで受けていると思う。ぎりぎりの状況であるとか高齢者が多いとか、いろいろと苦労はあるかもしれないが、今のところはしっかり運行してもらっている。ただ、今後そのような心配もあると思うので、業者には委託したからそれきりではなく、こまめに情報共有などをして対応していきたい。

○芦谷委員長

ほかに質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(13) 浜田市生活路線バス「有福線」の運行について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○まちづくり社会教育課副参事

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(14) 令和6年度幼児教育・保育施設の変更点と未就学児童の状況について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○教育総務課幼児教育担当課長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

○岡本委員

保育所に県から運営費として補助するのに、例えば80人でやるといった過去からの流れがあるが、幼児が減ってくると保育所の方針として人数を下げている状況があるのではないかと思うが、状況が分かれば教えてほしい。

○教育総務課幼児教育担当課長

児童数が減っているので入所児童は年々減少傾向にある。児童によって定員数を適正な人数に下げている園があるが、それに沿って運営費を支出している。

○岡本委員

要は、幼児が減ったことについては定員数を変えて対応しているのが現状だと認識して良いか。

○教育総務課幼児教育担当課長

園児数が減って定員に満たないところは、適宜そのように定員を下げている現状はある。

○岡本委員

子どもが減って、経営者側としては非常に厳しい経営状態になりつつあるのではないかと思う。運営費などは県が主体であって、本部会計は市がやるのだが、実際その辺の実態を担当課は把握しているか。

○教育総務課幼児教育担当課長

園によっては厳しい現状をご相談いただいているところもある。市も運営費を支払ったり小規模保育園に対して加算を付けたりとできる限りのことをしているが、個別にご相談いただいているところもある。園児数の動向を見ながら今後も寄り添って対応していきたい。

○村武委員

保育所型認定こども園から幼保連携型認定こども園に移行した施設があるとのことだが、この違いを説明してほしい。

○教育総務課幼児教育担当課長

保育所型というのは保育所の認可を持つ施設に幼稚園機能を取り入れたものである。幼保連携型というのは幼稚園と保育所の両方の機能を併せ持っており、施設と設備が一体的に設置、運営されており、学校としての教育と児童福祉施設としての保育を一体的に行う施設である。

○村武委員

今回ながさわ子ども園が移行した理由は分かるか。

○教育総務課幼児教育担当課長

この園は清和会が運営しており、これまでも幼保連携型に変えていっている。幼保連携型になるメリットは、教育施設として位置付けられることと、園側としては幼稚園教諭になるための教育実習を受けられるようになることがあり、実習を受けたことによって就職に結び付く可能性が高くなるということが園側にとってはメリットになると思う。

○村武委員

施設の未利用者について、先ほど3歳から5歳までのその後の状況把握はしているとの話だったが、その後この子どもたちがどうなっているかを説明してほしい。

○教育総務課幼児教育担当課長

これまでも関わりがあって状況を把握している子どももいるし、4月1日以降に転出した子どももいる。施設に入らない事情はそれぞれあり、そのあたりは細かいケースになるためここでは申し上げられないが、市は状況を把握している。

○芦谷委員長

ほかに質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(15) 令和5年度 市内中学校卒業生（令和6年3月卒業）の進学状況について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○学校教育課長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(16) 浜田市内県立高校3校共同寄宿舍（男子）の運営状況について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○学校教育課長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

○永見委員

市の3校共同寄宿舍の設備について記載されているが、浜田高校の寮の設備とどのような違いがあるのか。

○学校教育課長

設備面での一番大きな違いは、一部屋の収容人数と居住空間、あとは個人の私的な空間がどれくらいあるかである。共同寄宿舍のほうは6畳間が2間あるので、それぞれそこにベッドと机を置いて普通の家の空間として生活できる状況にある。

一方、浜田高校の寮は築50年経過している。4人部屋ということで、90センチくらいの扉を開けると両サイドに2段ベッドがあり、足元に約1メートルの収納スペースがあり、奥に4つ机が並んでいる。プライベートな空間が少ない状況で、生活空間の部分で大きな違いがあると認識している。

水産高校は少し前に改修された部分があり、2人部屋など個人の空間に配慮した設計になっている。

○永見委員

浜田高校の寮については、市の共同寄宿舍とは設備面でかなり異なった部分があると聞いているが、そういうことはないか。

○学校教育課長

寮の場合、洗濯機と乾燥機は2か所を共同で使うようになっているが、市の共同寄宿舍は各部屋に設置しており、確かに使いやすさは共同寄宿舍のほうが充実している。通信設備は、テレビも入れていないので、そういった部分は大きな違いはない。

○岡本委員

このたびの共同寄宿舍は、2人部屋になったことで浜田高校の寮より住環境は良くなったと思う。共同寄宿舍にはインターネットなどの設備はないのか。

○学校教育課長

設備等の居室の欄にW i - F i と書いているが、これが無線通信設備である。今

年度の当初予算で説明したが、ケーブルテレビの回線を入れてインターネットができるようにしている。

○岡本委員

ネット環境は必需品だと思うので、いろいろな情報を取る環境を整備しないとけないと思った。説明を聞いて安心した。

○西田委員

当初予算の運営費は全体で4千万弱だったと思う。入居者数は全員で32人が入る計算で、寮費が1人年間60万円として差引2千万円程度が市の持ち出しだったと思う。今回22人が入居したため、寮費の収入は600万円程度減少するということで良いか。

○学校教育課長

今年度の定員は22名で計画していた。運営費の予算も22名で計算していたので、寮費については変動がない。月額5万円の12か月の22人、年間1,320万円ということで、これは予定どおりである。

先ほど岡本委員から質問があったが、事業費に変更はないが、県の住まい確保支援補助金が、当初予算の編成時点では10人程度という県の基準があったが、県が見直して各居住スペースに応じて補助金の上限額がそれぞれ決まったが、今年度22人はその枠でいうと677万円の内示があって、現在補助金の申請中である。その部分が270万円くらい増額になるので、その部分は市の持ち出しが減る。

○教育長

定員32人が皆入ったときの運営費の全体経費があるが、初年度は22人と見込んでいるので入らない部屋についての設備投資はしていない。したがって、その分支出も抑えられているので、そういう形で運営している。

○西田委員

最初は県の補助金も考慮した上での当初予算だと思った。それが4千万円弱で、32人の定員が入って寮費の収入が1,920万円程度なので差引すると約2千万円掛かるのかと思っていたので、入る生徒数が減った分だけ入りも減ったと思ったのだが、全体の運営費4千万円弱の部分について変わりはないのか。

○学校教育課長

事業費3,893万7千円の支出は変更ない。ただ、先ほど言ったように、県の補助金部分が増額になるという変更がある。

○芦谷委員長

ほかに質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(17) 令和5年度学力育成総合対策事業実績報告書

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○学校教育課学力向上推進室長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(18) 石見神楽の保存・伝承に向けた検討について

○芦谷委員長

執行部から説明をお願いします。

○文化振興課神楽文化伝承室長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(19) その他

(配布物)

- ・令和6年度運動会及び学習発表会等日程
- ・令和6年度学校別児童生徒数一覧表

○芦谷委員長

配布物が2件ある。1件目について、執行部から補足説明があるか。

○学校教育課長

(以下、資料を基に説明)

○芦谷委員長

委員から質疑があるか。

(「なし」という声あり)

2件目について、執行部から補足説明があるか。

(「なし」という声あり)

委員から何かあるか。

○西田委員

昨日、旭地域の住民から聞いた話だが、ゴールデンウィーク期間中に瑞穂インターチェンジバス停で高速バスの乗り越しがあった。家族連れが高速バスを待っていたが満員なので乗れず、次のバスを待ったが1席しか空いていなかったため、1人がそれに乗った。このように家族を分断してまで乗らなければならない状況だったと聞いた。

別の人には、広島から高速バスに乗って重富インターチェンジで降りる際に満員だったのでバスの運転手に聞いたら、ゴールデンウィークにはよくあると言われた。ある人はバスの待合所で弁当を二つ食べるほど次の高速バスを待った。

このようにいつまで経ってもなかなか乗れない状況がゴールデンウィークにあったということなので、ゴールデンウィーク、盆、正月にはそういう状況が今後何度も

出てくるのが予測されるので、そのことをしっかり市に伝えてほしいと言われたので、ここで報告する。

○まちづくり社会教育課副参事

その件は聞いている。石見交通にも確認したが、やはり運転手不足で、昔は増便して2台目を出すなど手厚いこともしていたが今はそれもできない。コロナ禍だったためか昨年度まではゴールデンウィークにそれほど乗客がいなかったこともあったようだ。それで今回も、急だったとは思いますが5月5日と6日には浜田駅で時間を決めて整理券を配ったようだが、それも途中のバス停からだとなしく、そういうものを配っていること自体が事前に周知されていなかったと思うので、今後、盆と年末年始は同じようなことになると思うので、事前に石見交通ともいろいろ話をしながら、できる範囲で、整理券を配るならいつでもどこでどのように配るかなど早目に情報提供をしたい。

○芦谷委員長

ほかに何かあるか。

(「なし」という声あり)

ここで、5月24日の全員協議会に提出して説明すべきものを決定したい。まず執行部の意向を確認したい。

○総務課長

本日報告した項目のうち、(4)、(16)、(18)の3件を全員協議会に提出し説明したい。

○芦谷委員長

執行部の意向のとおりでよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのように決定する。

2 その他

○芦谷委員長

執行部から何かあるか。

(「なし」という声あり)

委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

それでは以上で総務文教委員会を終了する。

[12 時 21 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員会委員長 芦谷 英夫